



日本の未来を考える会

— 古き良き日本を取り戻す —



若年層を筆頭に3Kの仕事として毛嫌いされがちな農業ですが、農業従事者の減少・高齢化に伴う農薬への依存度上昇は、深刻な結果を招いてしまっています。

国別農薬使用量(kg/ha) 2009年



参考: GfK Kynetec社、Joy Consulting社。耕地面積当りの有効成分換算農薬使用量。
※慣行栽培の農薬使用回数は複数県のガイドライン(成分使用回数)より抜粋。

スーパーで売られている「●清●ーズ」「●本●粉」「昭●●業」の小麦製品から除草剤「ラウンドアップ」の主成分グリホサートが検出。

「昨年は、グリホサートが原因で悪性リンパ腫を発症したという米カリフォルニア州の男性の訴えを裁判所が認め、発売元のモンサント社(現: バイエル社)に対し、約320億円の支払いを命じる判決も出た。米国では、同様の裁判が約8,000件も起きています」(「日本消費者連盟」 瀬織美千世さん)

※グリホサート: WHO(世界保健機関)国際がん研究機関が発がん性を認めている。

世界での「グリホサート農薬」規制状況 痛などを引き起こすラウンドアップ等のモンサント製品

- フランス、ドイツ、イタリア、オーストリア…3年以内に禁止
- スウェーデン…個人使用禁止
- ブラジル…近々グリホサートを含む農薬登録停止。使用禁止
- エルサルバドル…議会が禁止決定(米国の圧力で実行されず)
- アラブ6カ国…禁止
- ルクセンブルク…最大手スーパーがグリホサート販売禁止
- ギリシャ…2017年11月にグリホサート農薬の再承認が否決
- アルゼンチン…400を超える都市がグリホサートを規制する法案を承認
- ベルギー…個人向けの販売・家庭での使用禁止
- スリランカ…大統領令で禁止(その後、攻防中。一部規制緩和)
- ポルトガル…公的な場所での使用禁止
- バミューダ諸島…個人向け販売・使用禁止
- カナダ…10地方のうち8地方がなんらかの規制を実行
バンクーバー……公的な場所、家庭での使用禁止
最大手スーパー2社がグリホサート販売禁止
- マルタ…禁止の方針が出たが、現在攻防中
- デンマーク…規制機関作業部会が発がん性を認め、発芽後の使用を禁止
- オーストラリア…無数の都市と学校地域でグリホサートに代わる方法を試験中
- アメリカ…カリフォルニア州環境保護庁が、グリホサートを「がんを引き起こす」物質リストに加える。コネチカット州では学校と保育園で使用禁止、連邦では規制なし

日本…2017年12月に残留基準値を最大400倍緩和←日本は使用量拡大中!

出典: Baum, Hedland, Arestei and Goldman LawOffice

日本の農産物、まったく安全ではありません

【木村】平成 27 (2015) 年 7 月、イタリアのミラノでスローフード協会が主催した農業関係者の集いに招待されました。世界 80 ヶ国から参加した 6000 人もの若い農業関係者が一堂に集まり、そこで私は、「21 世紀は農業ルネサンスの時代だ」というテーマで、肥料、農薬、除草剤を使わない自然栽培で作ったリンゴの話を中心に、安心、安全な農業を復活 (ルネサンス) させようというスピーチをしました。

すると講演後に、一人の若者がつつつと寄ってきたのです。立派なあごひげのエジプトの青年で、真顔で私の目を見つめ、こう言ってきました。「木村さん、日本の寿司や和食はとても有名です。でも、本当に安心して食べられるのですか？」

日本の和食は平成 25 (2013) 年にユネスコ無形文化遺産に登録され、ローカロリーでヘルシーということもあって、世界の多くの人から愛されています。なのにこの青年はなにを言ってるのだろう。

もしかして

福島第一原発の事故による放射能汚染のことが心配なのかなと思って聞いてみたら、

「いいえ。チェルノブイリ原発事故の例があるから、放射能汚染の深刻さはわかっています。それではなく野菜の硝酸態窒素の問題です。

日本では硝酸態窒素が多く含まれた野菜をいまだに売っていると聞いています。

なぜ日本人はそんなに無防備なのですか？」と。

すると「そうだ、そうだ！」と言わんばかりに、

肌の色の異なった 20 人ほどのでかい若者たちに囲まれて、

「日本の食材は本当に安全なのか」と、つるし上げを食らったんです。

皆さんは聞き慣れない言葉かもしれませんが、

硝酸態窒素は多くの病気の根源とも言われている怖いものです。

今から 60 年ほど前のアメリカで、

ある母親が赤ん坊に裏ごししたホウレンソウを離乳食として与えたところ、

赤ん坊が口からカニのように泡を吹き、
顔が紫色になったかと思うと 30 分もしないうちに
息絶えてしまう悲しい出来事がありました。
ブルーベビー症候群と呼ばれるものです。
牛や豚、鶏などの糞尿を肥料として与えたハウレンソウの中に
硝酸態窒素が残留していたんです。

硝酸態窒素は体内に入ると亜硝酸態窒素という有害物質に変わり、
血液中のヘモグロビンの活動を阻害するので酸欠を引き起こし、
最悪の場合死に至ってしまう。
また、発がん性物質のもとになったり、
糖尿病を誘発すると言われている怖いものなんです。
家畜の糞尿は有機栽培でも使われますが、
堆肥を十分に完熟させてから施せば問題はありません。
しかし未完熟の堆肥を使うと、
とくに葉ものには硝酸態窒素が残ってしまうので危ないのです。

パニックになる数字

さらに危ないのは化学肥料を施しすぎた野菜で、要注意です。
このような事件がその後も多発したために、
ヨーロッパでは硝酸態窒素に対して厳しい規制があり、
EU の基準値は現在およそ 3000ppm と決められています。
それを超える野菜は市場に出してはならない。汚染野菜として扱われるのです。

ところが日本にはその基準がなく野放し。
農林水産省が不問に付しているからです。

スーパーで売られているチンゲンサイを調べたら硝酸態窒素、いくらあったと思いますか？
1 万 6000ppm ですよ！
米はどうか？
最低でも 1 万 2000ppm。
高いほうは……とんでもない数値でした。
ここには書けません。皆さん、パニックになってしまうから。

それに比べて自然栽培農家の作ったコマツナは、わずか3・4ppmでした。

農薬も問題です。

日本は、農薬の使用量がとりわけ高い。

平成22（2010）年までのデータによると上から

中国、日本、韓国、オランダ、イタリア、フランスの順で、

単位面積あたりの農薬使用量は、アメリカの約7倍もあります。

残留農薬のある野菜を食べ続けると体内に蓄積されていって、

めまいや吐き気、皮膚のかぶれや発熱を引き起こすなど、

人体に悪影響を及ぼすとされています。

日本の食材は世界から見ると信頼度は非常に低く、下の下、問題外。

もう日本人だけなのです。

日本の食材が安全だと思っているのは。

ヨーロッパの知り合いから聞いた話ですが、

日本に渡航する際、このようなパンフレットを渡されたそうです。

「日本へ旅行する皆さんへ。

日本は農薬の使用量が極めて多いので、

旅行した際にはできるだけ野菜を食べないようにしてください。

あなたの健康を害するおそれがあります」

（講談社引用記事 終わり）



無農薬で安定した農業を実現するには・・・

[モデル都市ご紹介ページに戻る](#)